

1. 2014年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	46,383	104.4	↑
支出	40,361	101.0	
経常収支差額	6,021	134.6	

評価：数名の入院及び退所はあったが、新規含め待機者確保を数名行っていた事もあり、予算達成の見込みである。



② 職員配置と研修（職員数は2015年1月現在）

常勤：5名（うち2名兼務） 契約：1名 常勤看護師1名（なごみ兼務） 非常勤：6名 営繕：4名
4月スタート段階において常勤職員の異動などもあり、混乱は否めなかった。また、年度途中での常勤退職及び、非常勤退職などがあった。常勤は、異動による補充が行えた。今後、非常勤職員の補充を要する。（2名程度）

③ 事業内容

年間通し、『入居者さんへ暮らし・生活を返す！！』その中から見えてきたものには、大切なものがありました。‘繋がりが広がり 関係性の中で生きる’

暮らしとは？生活とは？共に笑って笑いそしてまた笑う。共に悲しみ涙し一緒に泣ける。

隣に居てる人が、集団生活を共にする人だけの関係ではなく、友人であったり、仕事の仲間であったり、時には家族の様な存在であったり。その様な姿が多く見られた。継続する事を求めていく。また、日々の暮らし生活上での情報共有及び方向性の確認においては、更に深めが必要であると考えられる。

今年度、GH初めての看とりの機会を頂いた。

職員だけでなく、入居者さん含め地域の方々と『関係性の中で生きる 関係性の中で逝く』最期まで共に。そしてみんなで‘であい’～お見送りをさせて頂けたことはこれからも、ばあちゃんみんなの中で生き続けます。

職責を越えた大切な大切なものが、職員一人ひとりにあったと思います。

これからも大切にしていきます。


④ 品質管理

2014年度の主課題であった『本人が望む暮らしを実現するためのツールとツールを活かしていくためのシステムづくり』においては、連携における必要書式の見直し（介護・看護連携）（現場と他機関）（24時間の生活が切れない申し送り表）など行ってきたが、定着しつつある。また、日々の暮らしにおける変動の中で、（医療情報含めた）情報共有及び連携の更なる強化が必要であるが、チームとしての方向性は見えてきている。

ひやりはつとにおいては、服薬が抜けてしまう... 情報の伝達ミス... といった内容が多い。この部分についての注意をするといった意識的な部分だけでなく、入居者といった前に、一人の『人』の生きるとは・暮らしとは・生活とは といった部分における考察力は、更なる求めが必要であると考えると同時に、発信者となる人材を一人でも多くつくる事は課題である。

2. 2015年度の計画

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	44,500		4月より入居満床スタートが予測される。
	43,949		2014年度、新規相談件数(56件)などからみても、GH入居希望者の需要は、非常に多く見込まれる。待機者確保の安定維持を行い、空床をつくらない安定的稼働率を目指していく。新たな加算なども報酬改正で設けられているが、現状として追加算定出来るものは該当しない。このことから、少しでも底上げを図る、且つ、待機者確保のためにも予ねてから検討していた“共用デイ”を実施。 【共用デイ収入の見通し】 5,500円×2回(週)×2人×36週(9か月)≒800,000円
支出	551		

② 主課題

<p>(仮)『ココロで手を合わせ感謝の想いを 言葉に そして形に』 ～発信者の育成～ 暮らしとは？生活とは？生きるとは？共に？一緒に？を常に考え向き合えられる関係づくり</p>
--

③ 年間事業計画(予定)

4月	花見(桜)	10月	日帰り旅行
4月	花見(造幣局通り抜け)(合同)		運動会(合同)
5月	であい4周年開設記念	11月	紅葉観賞
	つつじ鑑賞(浄土寺)	12月	保育所交流(合同)
	つつじ鑑賞(合同)		クリスマス会
	母の日		忘年会(合同)
6月	保育所交流会(合同)	1月	正月
	父の日		新年会
	住吉大社御田植祭	2月	節分企画(合同)
	バーベキュー(合同)	3月	ふらっと楽しむすみよし(合同)
7月	七夕(流しそうめん)(合同)	研修	であい高齢部門合同 年6回
	家族会	研修	GH・特養合同研修「お年よりの暮
8月	盆踊り(合同)		らし・生活を考える」7月
	大領小PTA企画		上記振り返り研修 12月
9月	敬老企画(合同)		